

第二章 都市寸成の目標

第2章 都市づくりの目標

2-1 都市づくりの将来像

嘉手納町都市計画マスタープランは、「第5次嘉手納町総合計画」で示された将来像に即し設定し、「ひと・みらい輝く交流のまち かでな」の実現を目指します。

第5次嘉手納町総合計画において、『ひと』が夢や希望を持ち『交流』を育むことでさらに『輝く』みらいを目指すことが示されています。

ひと、みらい輝く交流のまち かでな

ちなみに！

総合計画の基本理念

本町のまちづくりは、みらいを輝かせる『ひと』、交流を育む『ひと』が集い、まちづくりに取り組むことで『みらい輝くまち』の構築を目指し進めていくものです。

まちづくりは、長期的な視点に立ち基本的な価値観を維持しながら、一貫した取り組みを進めていく必要があります。このため、これまで20年間にわたってまちづくりの将来像を「ひと、みらい輝く交流のまち かでな」と定め、町民が生活しやすいまちづくりに取り組んできました。

第5次総合計画においても引き続き同じ将来像を掲げ、根幹である『ひと』が互いを信頼し、信頼が支え合いを生み出し、支え合いが協働の精神を育み、協働によるまちづくりが成されることで環境をつくり、生活や文化、歴史が調和し、継承・発展を遂げながら活気に満ちた未来へつながっていきます。

そのような希望を持ち、その実現に向けての基本理念を「信頼」「発展」「継承」とし、今後10年間の指針であるとともに、行財政運営を行う上で普遍的な姿勢として位置づけます。

総合計画の人口ビジョン

平成27年度「嘉手納町人口ビジョン」を基に、第5次嘉手納町総合計画では、目標年次令和10（2028）年における嘉手納町の将来総人口を14,000人と設定します。

memo

2-2 都市づくりの基本目標

都市づくりの将来像の実現のため、住民の声や都市づくりの課題を踏まえ、今後の20年間の都市づくりの基本目標を設定します。

1 限られた空間を活かし、コンパクトで連続性の高いまちづくり

大半が米軍施設に占有される町域においては、限られた空間（土地）を最大限に有効活用します。また、適切な土地利用をコントロール・誘導することにより、都市活動と都市環境の調和を図ります。

もとよりコンパクトな我が町においては、さらなる利便性の高い中心拠点及び地域拠点の形成を図るとともに、公共交通ネットワークで拠点や主要施設を結ぶことにより、連続性の高いまちづくり、ウォークブルなまちづくりを目指します。

2 多様な人が行き交い、賑わいと交流が生まれるまちづくり

本町は、戦前より人々の往来、物流を支える重要な拠点として賑わいました。中部圏域の結節点として賑わいの遺伝子を継承し、「ヒト」「モノ」「コト」が揃う賑わいを感じる地域を目指します。

まちで暮らす全ての町民と、まちを訪れる方たちが、まちの中で交流する賑わいのあるまちづくりを目指します。

3 活発な都市活動が創りだす持続可能なまちづくり

密集市街地や狭隘道路などの暮らしの阻害要因を改善し、将来にわたり住み良い居住空間、活発な都市空間の形成を図るとともに、都市公園や緑地の機能強化や環境整備をとおして、「まち」と「みどり」が共存・融合する持続可能なまちづくりを目指します。

特に、我が町の魅力を特徴づける海浜空間や商業機能を有するエリアについては、西海岸へのローケーション、ポテンシャルを最大限に活用するなど、付加価値の高い暮らし、観光振興に寄与する魅力的なまちづくりを目指します。

4 都市防災機能を高め、豊かで安心して暮らせるまちづくり

「都市防災」は、嘉手納町に住み・訪れる全ての人の生命と財産を保護する重要な視点です。公共施設の強靱化と防災機能拡充を積極的に図り、避難・救助・復興を念頭に置いた持続可能な防災まちづくりを進めます。

また、グリーンインフラの整備・活用により、防災機能強化を図るとともに、環境負荷の少ない都市空間の形成、豊かで安心して暮らせるまちづくりを目指します。

memo

グリーンインフラ 社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めること。

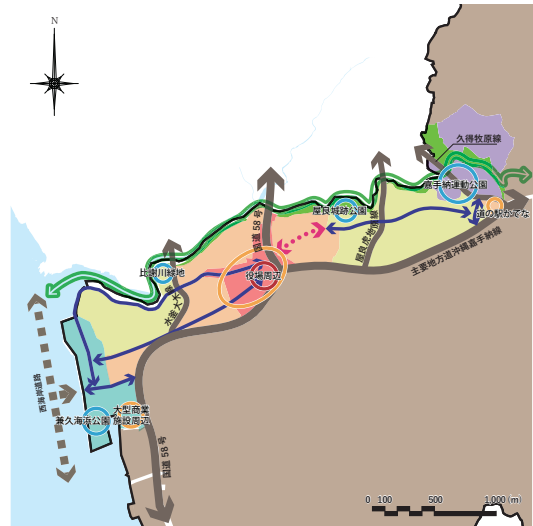
用語集参照_インフラ、ウォークブル

2-3 将来都市構造

将来都市構造は、将来の都市の姿を骨格構造として表現するものであり、

「ゾーン（面）」「軸（線）」「拠点（点）」の3つの要素を概念的に捉えることで、効率的かつ適切な都市づくりの方向を導くことを可能とするものです。

考え方としては、点を形成する場所を選定し、点を結ぶ軸を適正に配置することにより、面的な市街地の広がりを構成するものです。



①ゾーン（面）

ゾーンは、地域特性に応じた面的な広がりや都市の形成において期待される役割を表します。現状の土地利用や地域特性、将来期待される都市づくりを踏まえ、以下の6つゾーンに区分し、ゾーンごとの土地利用の誘導を図ります。

都市型居住ゾーン

嘉手納町の経済をけん引する行政、商業、複合的な店舗・事務所併用多層型集合住宅が集積し、都市活動と暮らしが融合するゾーン

複合型居住ゾーン

日常生活のサービス機能と居住が調和する複合的な居住ゾーン

庭園型居住ゾーン

落ち着いたある市街地を形成し、日常の生活を支える便利施設が適度に揃う、ゆとりのある居住ゾーン

オーシャンフロント型居住ゾーン

海辺や海浜空間を活かした交流機能と利便性の高い居住空間を両立した賑わいのある居住ゾーン

公益・産業ゾーン

公益的な土地利用と産業振興を推進するゾーン

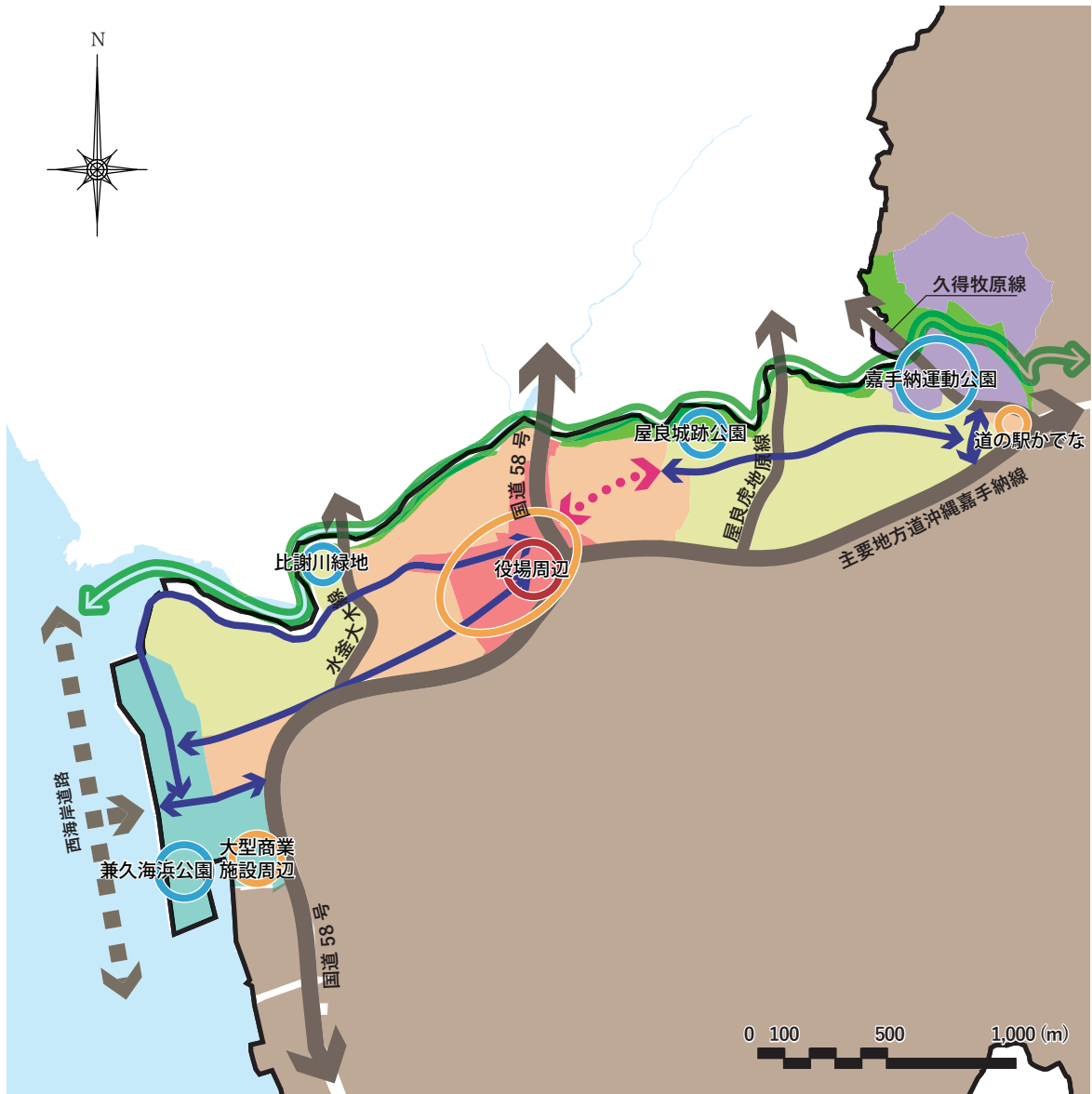
斜面緑地保全ゾーン

嘉手納町の豊かな自然環境を表し、斜面緑地の保全を図るゾーン

memo

オーシャンフロント 本計画では、市民が居住や労働・娯楽・交通などの都市活動の諸環境として利用できる、水際線に接する陸域周辺および水域を併せ持った地域を指す。

将来都市構造図



凡		例	
ゾーン (面)	<ul style="list-style-type: none"> 都市型居住ゾーン 複合型居住ゾーン 庭園型居住ゾーン オーシャンフロント型居住ゾーン 公益・産業ゾーン 斜面緑地保全ゾーン 米軍施設 	軸(線)	<ul style="list-style-type: none"> 都市活動軸 地域連携軸 地域交流軸 自然環境保全軸
		拠点(点)	<ul style="list-style-type: none"> 行政・商業誘導拠点 賑わい・交流創出拠点 レクリエーション拠点

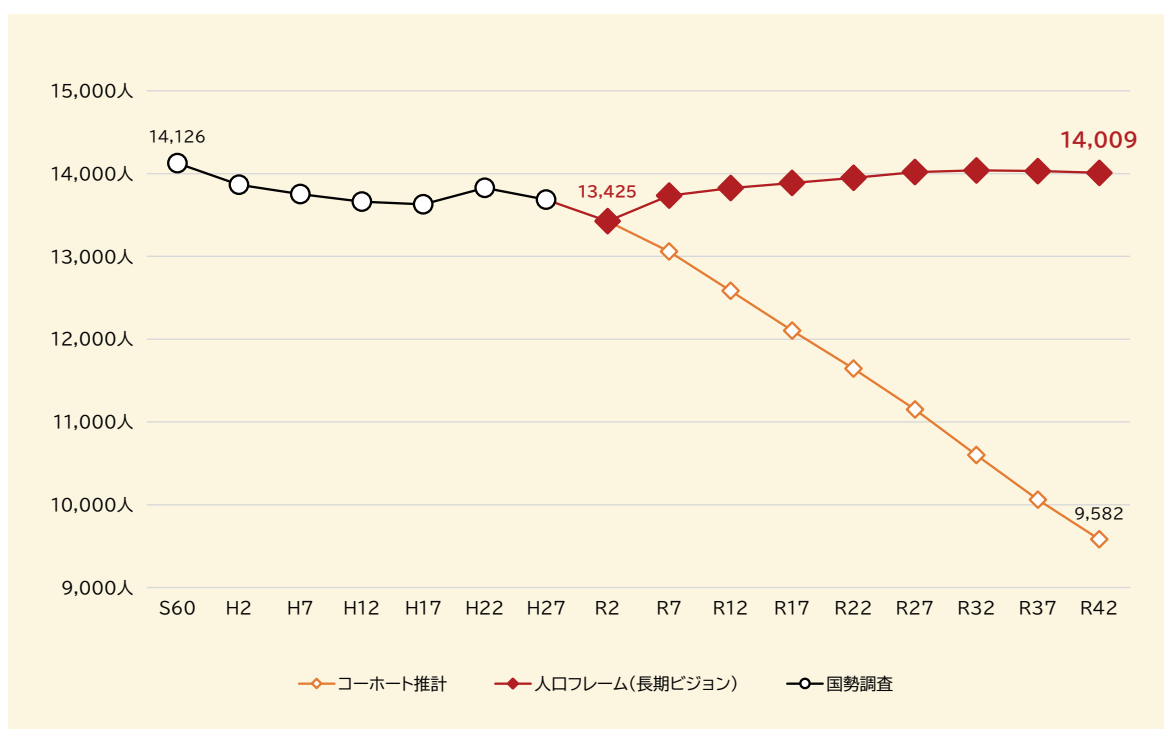
memo
用語集参照_オーシャンフロント

2-4 将来人口フレーム

第2期嘉手納町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度）における長期人口ビジョンにおいて、将来にわたり 14,000 人を維持することが示されています。

人口ビジョンに準じ、嘉手納町都市計画マスタープランにおいては、概ね 20 年後（令和5年度→令和25年度）の人口フレームを 14,000 人と設定します。

2043（令和25）年度 **14,000人**



「第2期嘉手納町まち・ひと・しごと創生総合戦略」より作成

総合戦略と都市計画マスタープラン

嘉手納町では、将来人口 14,000 人を達成するため「第2期嘉手納町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」）」を策定しています。

総合戦略では、【安定した雇用の創出】【住み良いまちの創出】【結婚・出産・子育て環境の充実】【安心して暮らせる地域づくり】を4つの基本目標を設定し、人口増加等に関する施策を展開しています。

嘉手納町都市計画マスタープランにおいては、【住み良いまちの創出】【安心して暮らせる地域づくり】に位置づけられた密集市街地の改善、公園整備、道路整備、防災機能強化等を計画的に進め、いつまでも住み続けられる都市づくり・住環境づくりを目指します。

memo

人口フレーム 将来推計人口に、政策・施策等の効果・影響を加味し想定した人口。

アンケートから分かる 嘉手納町民の声

アンケート調査概要

実施期間

2022年1月～2月

調査対象

- ①行政区別に、18歳以上の嘉手納町に居住する町民から無作為に抽出した2,000人
- ②嘉手納町のまちづくりに関心のある方すべて

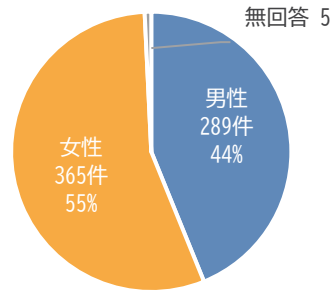
実施方法

- ①配布 調査票の郵送
回収 郵送&WEBフォーム
- ②周知 町公式LINE, 町HP
回収 WEBによるアンケートフォーム

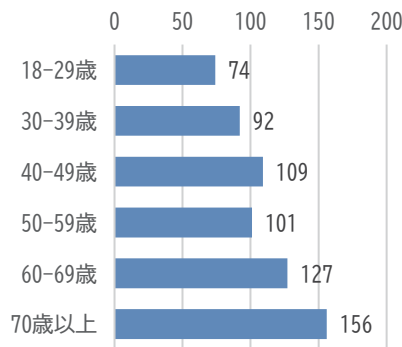
回収状況

- ①541件 / 2,000件 回収率 27.1%
- ②118件（町内111件、町外7件）

回答者の性別



回答者の年齢



Q. 嘉手納町をさらに住みやすくするための取組 ※合計には行政区に無回答の意見も含む

	東区	中央区	北区	南区	西区	西浜区	合計
スーパーや病院などの日常生活に必要な利便施設の充実を図る	60	25	33	11	23	73	226
高齢者が安心して暮らせる住まいや施設の充実を図る	37	26	23	10	22	50	169
誰もが利用できる身近な公園の整備やリニューアルを行う	22	19	20	13	19	40	133
防犯カメラや街灯の設置など、防犯対策を強化する	34	17	22	11	19	39	142
住宅地や公営住宅の整備など住む場所を増やす	23	30	15	12	9	38	129
自家用車に頼らずに移動できるような公共交通の充実を図る	37	16	24	6	14	38	136
高齢化が進んでいる密集市街地の改善に取り組む	27	31	17	11	10	30	126
路上駐車を減らすために町内に利用できる駐車場を増やす	35	18	20	11	16	34	135
町内の産業振興を図り働く場所の充実を図る	29	16	17	9	15	28	114
保育所や児童館などの子育て関連施設の充実を図る	13	9	7	8	11	37	85
車が通れないような路地に対して拡幅などの整備を行う	12	21	14	5	8	23	83
自然災害時の避難経路確保など、災害対策を強化する	14	3	5	6	7	39	74
地域資源である自然や文化の保全・継承を図る	13	9	7	2	6	17	54
地域コミュニティを強くするためにイベントや行事を増やす	4	7	9	1	6	14	41
地域の景観やまちなみをよくしていくためのルールづくりを行う	8	7	4	2	5	11	37

嘉手納町をさらに住みやすくするための取組として、町全体では、日常生活に必要な利便施設の充実が最も多く挙がっており、各行政区においてもほとんどの区で同項目が最も多くなっている。一方で、中央区については、密集市街地の改善が最上位となっている。また西浜区では、災害対策の強化が全体の傾向と比較して上位に挙がっており、地域ごとの課題が表れている結果となっている。